

会議録

件名	令和7年度第2回鳴沢村地域公共交通会議 議事録
とき	令和8年1月6日(火) 16時30分～18時00分
ところ	鳴沢村保健センター2階
出席者	鳴沢村地域公共交通会議委員 22名 事務局 4名
欠席者	1名
事務局長	1. 開会
会長	2. 会長あいさつ
事務局	<p>3. 議事</p> <p>(1)地域公共交通計画策定について</p> <p><資料1に沿って、「鳴沢村地域公共交通計画策定の進め方」を説明></p> <p>地域公共交通計画とは、バス・タクシー等の地域の移動手段を、より便利かつ持続可能なものへと改善するための計画であり、今年度および来年度にかけて策定するものである。計画は第1章から第5章で構成し、計画の位置付け・現状と課題・基本方針・施策内容・推進体制を整理する予定である。資料編には各種調査データを収録する。</p> <p>交通弱者の移動状況を把握し、優先的に公共交通サービスを提供すべき対象を整理することを含め、5つの方針を設定している。財源や担い手が限られる中で、全住民の利便性向上を目指しつつも、一定の優先順位を設けて検討する必要があると考えている。</p> <p>フロー図に基づき、本日の会議では以下の赤字部分について報告・協議を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特性・公共交通の現状整理 ・関係者ヒアリング結果の報告 ・想定される課題および目指す方向性の整理 <p>今後、これらの想定課題の妥当性をアンケート調査により確認し、次回以降に「地域公共交通を取り巻く課題」として整理し、協議を行う予定である。</p> <p>来年度に鳴沢村地域公共交通計画を策定し、計画目標や実施施策を整理する。令和9年度より、計画に位置付けた取り組みを実施する。詳細スケジュールは資料4ページに記載されている</p>
委員	(意見なし)

事務局	<p><資料2に沿って、「鳴沢村地域公共交通を取り巻く現状」を説明></p> <p>地域公共交通計画の基礎となる現状データとして、人口動態・移動状況・施設立地・交通サービスの実態を整理したものである。人口は約 3,000 人で推移しているが緩やかに減少し、特に 50～70 代が多く、60 歳以上が 4 割超を占めるなど高齢化が進んでいる。人口は鳴沢・大田和・富士山地区に集中し、国道 139 号沿線に偏在している。</p> <p>通勤では村外へ向かう流出が多く、富士河口湖町と富士吉田市が主な行き先である。また、同市町からの通勤流入も多い。通学については村内に中学校がないため、毎年 70～80 名が村外の学校へ通っている。主要施設も国道沿いに立地し、住民の外出は同沿線への移動が中心である。</p> <p>自家用車保有率は世帯当たり 1.7 台と高く、自家用車依存が強い。一方で観光客は年間 114 万人と多く、道の駅や氷穴などへの来訪が多い。</p> <p>公共交通は国道沿いに路線バスが運行し、バス停から 300m 圏内に人口の 83%が居住するが、圏域外の住民への対応が課題である。路線バス・タクシーのほか、スクールバスや福祉タクシーなども運行されている。公共交通への年間支出は 189 万円である。</p> <p>ヒアリングでは、バス事業者から採算性の厳しさや運転手不足が指摘され、新たな交通サービスの検討余地も示された。庁内からは自家用車依存や高齢者の多様な移動ニーズが共有され、別荘地関係者からは温泉等への外出需要がある一方、移動に困っている住民は多くないとの意見があった。</p>
委員	<p>3 ページにおいて「(4)地域別人口及び高齢化率」と記載されている。その中で、鳴沢地区の世帯数は 331、大田和地区は 189、富士山地区は 178 である。しかし、9 ページの「自家用車保有台数の推移」において、令和 2 年から令和 6 年までの世帯数は約 1,330 世帯となっている。3 ページの世帯数を合計しても 1,000 世帯に満たないため、両者の数値に差異が生じている。この差異の理由について確認が必要である。</p>
事務局	<p>出典が異なるため、数値が合致しない。3 ページの数値は住民基本台帳を基にしたものである。一方、9 ページの数値は国勢調査を基にしたものである。そのため、両者の間に差異が生じている。ただし、数値の乖離が大きい印象があるため、事務局内で一度確認を行う。</p>
委員	<p>4 ページの人口分布状況について、鳴沢地域からジラゴンノ・焼間までが繋がっていると思われるが、分布の中では人口集積がほとんど一区の鳴沢地区に集中しており、過半数どころか約 7 割程度を占めていると推測される。しかし、それ以外の地区についてはプロットされていない。この点について、調査が</p>

	<p>不可能であったのか、把握できている状況で敢えて表示しなかったのか、どちらなのか。</p>
事務局	<p>人口メッシュデータは、国勢調査の結果をもとに公表されており、それをダウンロードし、各メッシュに人口が何人いるかという情報を反映させたものである。作業過程で抜け漏れがないか、念のため確認する。</p>
委員	<p>3 ページの数値と 4 ページの数値が整合していないのではないかと。</p>
事務局	<p>出典が異なることが要因と考えられるが、念のため、各データを確認する。</p>
委員	<p>資料 10 ページについて、令和元年から令和 6 年にかけて観光客数が 3 分の 1 程度減少しており、他地域と傾向が異なるため、出典元を確認したところ、令和元年と令和 2 年以降で集計方法が変更されている可能性がある。このまま提示すると誤解を招く恐れがあるため、注記等が必要である。</p> <p>また、施設別観光入込客数において、鳴沢氷穴の令和 3 年・4 年の数値が特異であり、同様に注記等が必要ではないかと。</p>
事務局	<p>注記の追記する形で修正する。</p>
委員	<p>3 ページの年齢別人口の記載について、2 行目で 60 歳以上の人口が全人口の 42.5%となっているが、最初は高齢化率かと思った。しかし、高齢化率は 65 歳以上の人口を基準とするため、ここは 65 歳以上の人口を表記し、高齢化率も同時にわかる形にする方が適切であるとする。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり、修正を行う。</p>
事務局	<p><資料3に沿って、「鳴沢村地域公共交通における課題・方向性(想定案)」を説明></p> <p>資料 3 は、アンケート調査の設計に先立ち、村の公共交通が抱える課題と、現時点で想定される方向性を整理したものである。網羅的に質問するのではなく、仮説を持って、調査を行うために整理したものである。</p> <p>まず、公共交通の課題として 4 点を想定している。1 つ目は、高齢者や中高生など交通弱者への交通手段が不足している点である。自家用車が利用できない層の移動確保が重要である。2 つ目は、村内に大型商業施設や大規模医療機関がないため、村外施設への移動手段が不足している点である。3 つ目は、路線バス・タクシー・福祉タクシー・スクールバスなど、村内に複数の輸送</p>

	<p>サービスがある一方で、役割分担が整理されていない点である。ドライバー不足が深刻な中、効率的な運行が求められる。</p> <p>4 つ目は、自家用車依存が強く公共交通への関心が低いことである。送迎が難しい場合には外出を諦める住民もおり、公共交通の認知・関心向上が課題となっていると想定している。</p> <p>次に、これらを踏まえた目指す方向性として、「交通弱者の生活を支える持続可能な地域公共交通」を基本方針とすることを想定している。公共交通の必要性を属性別に整理し、まずは必要性の高い層（高齢者・免許返納者・中高生など）へサービスを重点的に提供し、将来的に対象を拡大していくことを考えている。</p> <p>目指す姿としては、①高齢者が公共交通で買い物・通院ができる、②子供が公共交通で通学できる、③村民が公共交通に関心を持つ、④地域全体で公共交通を支える体制ができる、という4点を掲げている。また、村外へ向かう交通と村内の移動を支える交通を連携させ、乗り継ぎ拠点を整備する将来ネットワークのイメージも示している。</p> <p>これらを踏まえて、アンケート調査で把握すべき内容を整理している。交通弱者の移動実態（困りごと・時間帯・行き先）、高齢者の買い物・通院状況、児童生徒の通学・部活動・外出状況、公共交通の認知度、情報入手方法、公共交通を利用しやすくする改善点、地域ドライバーへの関心、乗り継ぎに対する意識などを把握する必要があると考えている。</p>
委員	<p>6 ページに記載の「地域ドライバー」について質問である。具体的にどのような活動を想定しているのかを教えてください。</p>
事務局	<p>地域の方がドライバーとして参加する交通サービスを指している。公共ライドシェア、自家用有償旅客運送などをイメージしている。</p>
委員	<p>そのことが誤解なく、回答者に伝わるよう、工夫をお願いしたい。</p>
会長	<p>4 ページの表に記載されている「送迎に対して負担感がある方」は、このアンケートのどの設問で抽出されるのか。</p>
委員	<p>村民アンケートで、普段の送迎状況、送迎の負担感について聞き取る予定である。</p>
会長	<p>自家用車保有者が、公共交通を利用しない理由を把握することも重要であると考えますが、事務局の考えはいかがか。</p>

事務局	<p>村民アンケートの中で、路線バスについて満足していない点を把握し、利用しない理由を整理する予定である。自家用車を保有し運転・送迎に負担がない層は、今回計画のメインターゲットとせず、次期計画以降のターゲットとする見込みである。4 ページの表では、自家用車を利用でき、運転や送迎に対する負担感が少ない層を“公共交通の必要性が低い層”として整理している。人手とお金が限られるため、まずは、4 ページに示すメインターゲットを中心に移動を確保していくことを想定している。</p>
会長	<p>自家用車利用からの完全な転換は難しいとしても、公共交通への関心を高める観点から「利用しない理由」も把握したい。例えば、雨天・荒天時や夜間、飲酒時など、条件によっては公共交通を使いたいニーズがある可能性がある。そうした機会・状況を拾うことで、改善の方向性が見えてくると考える。</p>
事務局	<p>＜資料4に沿って、「各種アンケート調査の実施について」を説明＞</p> <p>資料4では、村民アンケートと公共交通利用者アンケートの2種類の調査内容を整理している。これらは、公共交通の課題や目指す方向性を具体化するために必要な基礎データを収集する目的で実施するものであり、網羅的な質問ではなく、想定課題に基づいて設問を設定している。</p> <p>村民アンケートの調査方法は郵送配布・郵送回収とし、全世帯(約1,400票)へ配布する。QRコードによるWeb回答も可能とし、世帯内の複数人の回答を促す仕組みとする。1月23日頃に配布し、約10日間の回答期間を設ける。主な調査内容は、日常の移動実態(買い物・通院・通勤・通学・余暇)、公共交通の利用状況、認知状況、公共交通への意識や満足度、乗り継ぎの重視点、公共交通が充実した場合の生活変化、地域ドライバー制度への関心、村の公共交通財政負担に対する考え方などである。併せて年齢・性別・居住地区・運転可能範囲など、属性情報も聴取する。</p> <p>公共交通利用者アンケートでは、路線バス利用者を対象とし、社内留め置きと調査員による聞き取りの2方式で実施する。配布目安は約200票であり、村民アンケートと並行して1月下旬から実施する。調査内容は、バスの利用頻度、利用区間、往復利用の有無(片道のみの場合は理由を聴取)、乗り継ぎに関する意識、今後利用を継続してもらうための改善点、利用者が感じるバスのメリット等である。属性として年齢・性別・居住地区・運転状況も把握する。</p> <p>これらのアンケート結果を基に、交通弱者の実態把握、利用ニーズの精査、乗り継ぎに対する受容度、新たな交通サービスの可能性、利用促進策などを検討していく予定である。</p>
委員	<p>アンケート実施年度から、実際の交通サービス見直しまでに2~3年かかる想定である。3年が経過すると、通学状況等が変化する可能性がある。アンケ</p>

	<p>一トを取る際には、現状だけでなく、「3年後にどう考えているか」という視点を設問に含める必要があるのではないか。</p>
事務局	<p>確かに若年層の移動状況は数年単位で変化する可能性があるため、この点については事務局内で検討する。</p>
会長	<p>高齢者の方についても、公共交通が充実すれば免許返納を検討する可能性があると考えられる。そのような意向を把握することも重要である。</p>
委員	<p>村民アンケートの「公共交通に対する財政負担」について、対象が村民全般である中、基準が不明確な状態で聴取する意図に違和感がある。財源や財政負担の議論は利便性とはかけ離れており、村民に一人一人何う事項としては適切か疑問である。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり、答えづらさや村民に財政面を問う必要性については課題があるため、事務局内で再検討する。掲載する場合は、村の年間負担額や村民一人当たりの負担額を提示し、現状の負担感を示した上で回答しやすい設問に工夫する方針である。</p>
委員	<p>公共交通という言葉自体が、アンケート回答者に十分理解されているか懸念がある。一般的に理解しやすい言葉遣いを意識してほしい。</p>
委員	<p>村民アンケートの「公共交通に対する財政負担」について、回答者の視点では、行政がすべて負担するという誤解を招く可能性がある。公共交通の概念と設問の意図が合致しているか疑問である。この質問は、回答者の解釈によって意味が異なり、誤った認識で回答される懸念があるため、設問の表現を再検討すべきではないか。</p>
委員	<p>回答者特性に関する「お住まいの地域」について、選択肢が細分化されているが、例えば鳴沢地域の場合、国道沿いでも別荘地区でもないため、回答欄がない状況である。また、最後の設問として、自由意見欄を設けることも検討すべきと考える。</p>
事務局	<p>1点目については、回答者の属性を把握する目的で設定した。関係者ヒアリングの中で、別荘地居住者は移動特性に特徴があるとお話があったためである。ご指摘を踏まえて、事務局内で再度精査し、アンケートを実施する。</p> <p>2点目については、紙面の都合を考慮しつつ、可能な限り自由意見欄を設ける方針である。</p>

<p>会長</p>	<p>通学している方について、帰りはスクールバスがあるとの説明であったが、特に困っている状況はないのか。部活動などで帰宅時間が変動する場合の問題はないのか確認したい。</p>
<p>委員</p>	<p>中学校については、スクールバスが学校側の配慮により、鳴沢村の生徒が必ず乗車できる時間までに帰宅させてもらっているため、問題はないと考える。一方、高校については、帰宅時間がバラバラであり、親の送迎や自転車など個別対応となっている。</p> <p>また、「通学先」の設問について、実際は通学需要があるが、選択肢に入っていない自治体があるため、選択肢に「その他」を設ける必要がある。</p>
<p>事務局</p>	<p>「その他」の選択肢を設け、すべての回答者が漏れなく回答できるように修正する。</p>
<p>委員</p>	<p>村民アンケートは全世帯配布との説明であったが、回答対象者をどのように定めるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>村民アンケートの配布は、全世帯を対象とし、世帯主宛にアンケート調査票を発送する予定である。ただし、調査票 1 ページ目の案内に QR コード回答の案内を明記し、同居しているご家族も回答可能とする。</p> <p>回答者に偏りが出ないように、宛名を世帯主としない方法も選択肢に検討・調整する。</p> <p>4. その他 (意見なし)</p> <p>5. 閉会</p>